

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(8)

(11)Publication number : 10-294929
(43)Date of publication of application : 04.11.1998

(51)Int.Cl. H04N 7/16
H04N 5/00

(21)Application number : 09-102217
(22)Date of filing : 18.04.1997

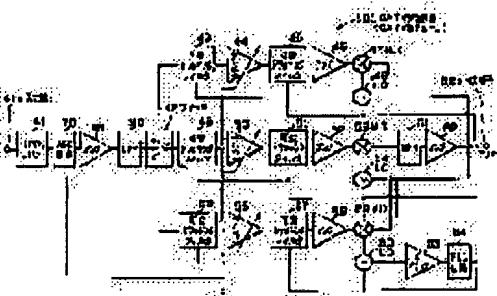
(71)Applicant : TOSHIBA CORP
(72)Inventor : IZUMI TAKASUKE
SHINGU YASUSHI
KUDO TAKEYA

(54) CATV RECEPTION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve performance and reduce cost by improving the phase noise, LO leak or return loss of low-pass offset.

SOLUTION: In order to reduce phase noises, a tuner 101 for CATV is basically constituted by adopting a single version type system having one local oscillator and one mixer or the like. In this case, an additional circuit composed of an AGC circuit 70 for controlling the gain of input signal frequency, an amplifier 80 and an LPF 90 is inserted between an HPF/LPF 41 and a switch 42 on the preceding stage of tracking filters (43, 49 and 55). Thus, since the isolation of input to each mixer is improved, the occurrence of LO leak and return loss or the like is suppressed, performance can be improved and costs can be reduced. Besides, since frequency division is performed by a variable frequency divider 67 without using the fixed frequency division prescaler of the PLL circuit, the phase noises caused by the low-pass offset of local oscillation frequency are reduced as well.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 27.07.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3288251

[Date of registration] 15.03.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(51) Int.Cl.⁶
H 04 N 7/16
5/00

識別記号
101

F I
H 04 N 7/16
5/00

A
101

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全9頁)

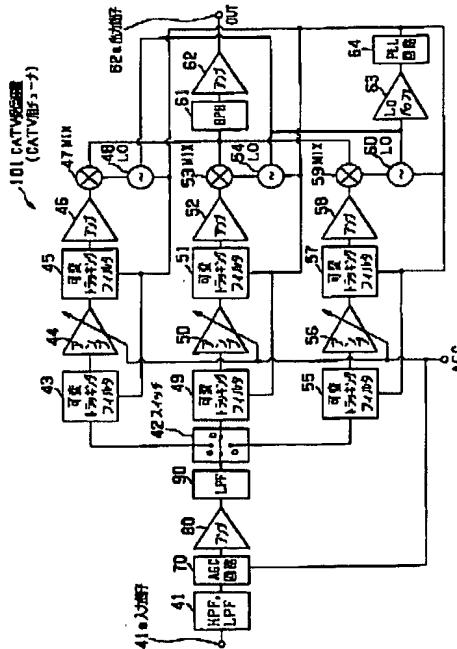
(21)出願番号	特願平9-102217	(71)出願人	000003078 株式会社東芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
(22)出願日	平成9年(1997)4月18日	(72)発明者	泉 隆輔 埼玉県深谷市幡郷町1丁目9番2号 株式会社東芝深谷工場内
		(72)発明者	新宮 康司 埼玉県深谷市幡郷町1丁目9番2号 株式会社東芝深谷工場内
		(72)発明者	工藤 雄也 埼玉県深谷市幡郷町1丁目9番2号 株式会社東芝深谷工場内
		(74)代理人	弁理士 伊藤 進

(54)【発明の名称】CATV受信装置

(57)【要約】

【課題】 低域オフセットの位相雑音及びLOリークやリターンロス等を改善して高性能化を可能にするとともに、低コスト化を図る。

【解決手段】 CATV用チューナ101の基本的な構成は位相雑音の低減のため、1つの局部発振器及び1つの混合器等を有するシングルバージョンタイプ方式を採用して構成する。この場合、HPF, LPF 41と可変トラッキングフィルタ(43, 49, 55)の前段のスイッチ42との間に、入力信号周波数の利得を制御するAGC回路70とアンプ80とLPF90とで構成される付加回路を挿入する。これにより、各混合器の入力のアイソレーションを改善することができるため、LOリークやリターンロス等の発生を抑制して高性能化を可能にし且つ低コスト化を可能にする。また、PLL回路の固定分周ブリスケーラを用いずに可変分周器67で分周することにより、局部発振周波数の低域オフセットでの位相雑音も低減することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 高周波信号が入力される入力端子と、前記入力端子に入力された信号を所定のレベルに制御して出力可能な利得制御手段と、前記利得制御手段に接続され、利得の制御された信号を増幅する増幅手段と、電圧制御型局部発振器及び混合手段を含み、前記増幅手段からの出力信号と前記局部発振器からの局部発振信号とを混合して中間周波信号を生成する周波数変換手段と、前記増幅手段と前記周波数変換手段の間に配置され、前記局部発振器を制御する制御電圧によって通過帯域が制限される可変フィルタ手段と、を具備したことを特徴とするCATV受信装置。

【請求項2】 前記局部発振器の局部発振周波数を制御可能なPLL回路部を備えて構成されたもので、前記PLL回路は、PLLの比較周波数と前記局部発振器の選局ステップ幅に基づく局部発振周波数との値を一致させるように位相比較を行うことを特徴とする請求項1に記載のCATV受信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、CATV放送を受信可能なCATV受信装置に関し、特に局部発振リークやリターンロス等を防止して高周波ユニットチューナの機器性能を向上させ且つ低コスト化を実現するのに好適のCATV受信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年のデジタル化、マルチメディア化に伴い、放送分野においては、現行の無線系の放送だけでなく、放送と通信の融合化がなされたケーブルテレビジョン放送（以下、CATVと称す）が注目されている。

【0003】 CATVは、従来より有線系の放送形態として幅広く普及しており、最近ではCATV先進国の米国におけるCATVの双方向サービス事業化の実現に伴い、我が日本においても、CATVの双方向サービスの事業化が進められている。

【0004】 また、CATVでは、既存の地上波テレビ、BS/CS衛星テレビ等の再送信、自主番組等を都市でサービスする都市型ケーブルテレビの普及も目ざましく、またインターネットにCATVにおけるケーブルテレビ網を利用したケーブルインターネットやケーブルカラオケ等の放送サービスシステムも強い人気がある。

【0005】 ところで、CATVを受信可能なアナログ方式またはデジタル方式のCATVを受信可能なCATV受信装置には、ケーブルや電波等の伝送媒体を介して送信された送信信号から所望の伝送帯域の信号を受信するチューナが組み込まれており、このようなチューナは、通常、タブルースーパ方式と呼ばれ、2つの周波数發

振器と2つの局部発振器を備えている。このようなタブルースーパ方式のCATVチューナを図4に示す。

【0006】 図4は従来のCATV受信装置を示し、タブルースーパ方式のCATVチューナの一例を示すブロック図である。

【0007】 図4に示すように、CATVチューナには、入力信号を取り込むための入力端子1aが設けられ、該入力端子1aには、図示しないヘッドエンドと呼ばれるセンター設備により受信されるとともにケーブル等の伝送媒体を介して伝送された受信信号（RF信号）が供給されるようになっている。入力端子1aを介して入力されたRF信号は、LPF, HPF1によって所定周波数帯域のみを通過させた後に、AGC回路2に供給される。

【0008】 AGC回路2は、図示しないAGC回路制御部からのRFAGC信号に基づいて、入力されたRF信号の利得を最適なレベルに制限して出力する。つまり、入力電波が強い場合には、図示しない映像中間増幅回路の利得を一定の小利得にしながら、この高周波増幅回路の利得制御を行い、混変調妨害等の発生を抑制する。

【0009】 AGC回路の出力信号は、アンプ3によって増幅された後、第1の混合器（図中にはMIXと記載）4に与える。第1の混合器4は、別に設けられた発振周波数の可変が可能な第1の局部発振器（以下、LOとして説明する場合もある）13から供給される発振周波数と、供給されたRF信号の周波数とを混合して元の二つの周波数差に等しい周波数とするビート信号を生成して出力する。即ち、混合器4は第1の周波数変換部であって、前記第1の局部発振器13からの発振周波数を用いることにより、アンプ3からの入力信号をアップコンバートして1stIF信号（中間周波数信号）に変換してHPF5に与える。

【0010】 HPF5は入力された1stIF信号の高域成分を通過させてBPF6に供給し、通過された高域成分の1stIF信号はBPF5によって所定の帯域が制限されることでCATV1チャンネル相当の帯域の信号となる。その後、BPF5の出力信号は、アンプ7によって増幅された後、第2の混合器8に与える。

【0011】 第2の混合器8は、第2の周波数変換部であって、第2の局部発振器15からの発振周波数を用いて、アンプ7からの入力信号をダウンコンバートして2stIF信号（中間周波数信号）に変換してLPF9に与える。

【0012】 LPF9は、入力された2stIF信号の低域成分を通過させてアンプ10に供給する。アンプ10は入力信号を増幅し、その後に増幅された信号はBPF11に与えることにより所定の帯域が制限され、さらにアンプ12によって増幅された後に、図示しない信号処理部へと出力されるようになっている。

【0013】このような構成により、例えば一段目の第一周波数変換部によって入力周波数を高い周波数に変換することで、局部発振器の発振周波数を入力R Fの帯域外に設定することができ、また局部発振器の周波数変化比を小さくすることを可能にする。また、第一周波数変換部と第二周波数変換部との間にB P F 6等の固定周波数フィルタ（帯域通過フィルタともいう）を設けて使用することにより、如何なる入力信号でもその出力波形を安定させることができとなる。

【0014】ところで、最近のデジタル放送でのC A T Vチューナーの傾向として、夫々1つの周波数変換器及び局部発振器を備えて構成されるため低価格で有利な利点があることから、シングルバージョンタイプの使用が見直されている。一般に、現在使用されているシングルバージョンタイプのチューナーとしては、テレビジョン受像機（以下、T Vと略記）に採用されているものが周知である。このようなシングルバージョンタイプのT V用チューナーの一例を図5に示す。

【0015】図5は従来のシングルバージョンタイプのT V用チューナーの構成例を示し、図5（a）はチューナーの構成を示すブロック図、図5（b）はチューナーに用いられるP L L回路の具体的な構成を示すブロック図である。尚、構成の説明は説明簡略化のために3バンドある内、1つのバンドについてのみ説明する。

【0016】図5（a）に示すように、T V用チューナーには、入力信号を取り込むための入力端子1 1 aが設けられ、該入力端子1 1 aには、図示しない受信アンテナにより受信された受信信号（テレビジョン信号であり、以下、R F信号と称す）が供給されるようになっている。入力端子1 1 aを介して入力されたR F信号は、L P F、H P F 1によって所定周波数帯域のみを通過させた後に、スイッチ1 2に供給される。

【0017】スイッチ1 2は、入力されたR F信号を夫々の周波数に合わせて3つに切り替えてそれぞれ対応する可変トランシッキングフィルタ（1 3、1 9、2 5）に出力する。例えばスイッチ1 2によって入力端bに基づくバンドに切り替えたものとすると、入力されたR F信号は、局部発振に同期した可変トランシッキングフィルタ1 9に供給され、該可変トランシッキングフィルタ1 9によって所定の帯域が制限されてアンプ（F E T A M P）2 0に与える。

【0018】アンプ2 0は、入力信号を図示しないA G C回路からの利得制御信号に基づくレベルで増幅するようレベラ調整して、後段の可変トランシッキングフィルタ2 1に与える。トランシッキングフィルタ2 1は、さらに入力信号の帯域を制限して出力する。この出力信号は、その後アンプ2 2によって増幅された後、混合器（周波数変換部）2 3に与える。

【0019】混合器2 3は、局部発振器2 4からの発振周波数を用いて、アンプ2 2からの入力信号をI F信号

（中間周波数信号）に変換して出力する。このI F信号は、その後、B P F（単回調フィルタ）3 1に与えることにより所定の帯域が制限され、さらにアンプ3 2によって増幅された後に、出力端子3 2 aを介して図示しない信号処理部へと出力される。

【0020】また、図中に示すP L L回路3 4は、局部発振器1 8、2 4及び3 0の発振周波数に基づいて制御信号を生成し、該制御信号を上記局部発振器1 8、2 4及び3 0に与えることにより、各発振器の発振周波数を制御するものである。

【0021】具体的には、図5（b）に示すように、P L L回路3 4は、局部発振器1 8、2 4及び3 0の何れかの発振器からの発振周波数を検出し固定分周ブリスケーラ3 8で分周した後に、更に可変分周器3 7で分周し、この分周した信号と高精度な固定発振器（図示せず）からの信号を分周する固定分周器3 5からの信号とを位相比較器3 6によって位相比較を行い、該位相比較結果に基づいて制御電圧V Tを生成し、前記何れかの局部発振器の発振周波数を可変させる。つまり、P L L回路3 4を用いることで、局部発振器1 8、2 4及び3 0の発振周波数を制御することが可能となる。

【0022】したがって、上記構成のシングルバージョンタイプのチューナーであるT V用チューナーでは、P L L回路3 4には、固定分周のブリスケーラ3 8が設けられているため、局部発振の選局S T E P幅と、P L Lの比較周波数とは、夫々異なる値となっている。

【0023】ところで、上述した2種類のタイプのチューナーを比較すると、次のような違いがある。例えば、現状のアナログ及びデジタル用C A T Vチューナーのダブルコンバージョンタイプでは、周波数変換処理を2回行うために局部発振器を2つ有しているため、局部発振器が1つで且つI C化の進んでいるシングルコンバージョンタイプのチューナーと比べて、価格的に不利である。つまり、コストが高価となる不都合がある。

【0024】また、ダブルコンバージョンタイプのものは、2つの局部発振の周波数が1～2G H zと高く可変幅も1G H zと広いため、電圧に対する周波数感度が高くなることから（e x. 3 5M H z/V程度）、位相雑音が悪化する傾向がある。また、出力信号の位相雑音については、2つの局部発振器の位相雑音が加算されて出力されるため、局部発振器が1つしかなく、さらに周波数が1 00～9 00M H zと低い（e x. 1 5M H z/V程度）シングルバージョンタイプのものと比較すると不利である。

【0025】近年、実用化の進んでいるデジタル放送C A T V、特に大量のデータを高レートで伝送する多値Q A M伝送（2 5 6 Q A M伝送）では、コンスタレーション（信号配置図）でのシンボルの間隔が狭く、つまりe y eパターンが小さく位相雑音が悪いと、各シンボルが位相方向に広がりを持つてしまうため、結果としてコ

ンステレーションがぼやけて（電子パターンがつぶれる）固定劣化増加の要因となる。そこで、このような不都合を回避するために、局部発振器を1つしか持たないシングルバージョンタイプのチューナーを用いて、位相雑音等の改善を図ることを考慮すると、上記の如くシングルバージョンタイプのチューナーには、TV用チューナーがある。

【0026】ところが、従来のTV用のチューナの構成では、混合器の入力発振周波数と入力信号とのアイソレーションが十分ではなく、また前段の2個のトラッキングフィルタでは、発振周波数の影響をなくすための処理が十分でない。さらに、アンプの出入力のアイソレーションが十分でないために、入力端子への発振周波数のリーク性能（以下、LOリークと称す）が不十分であったり、あるいは可変なフィルタにより帯域外のリターンロスが全反射に近い状態になってしまふため、全体域でのリターンロス性能が不十分だったりと、CATVに必要な性能レベルまで達していない場合もある。このため、伝送ケーブルを介して接続されている加入者に対して妨害を与えてしまい、結果として画像の劣化に起因するという不都合が発生する場合も考えられ、そのままの状態では使用することが不可能である。

【0027】一方、シングルバージontypeのチューナでは、上述したようにPLL回路にLO用の固定分周プリスケーラが設けられているため、局部発振の選局STEP幅と、PLLの比較するための比較周波数とは、異なった値をとっている。例えば、現状では4MHzのリファレンスを512分周して7.8125KHzの比較周波数でPLLを動作させているが、このとき、LO用の固定分周を1/8にすると、LOの選局STEP幅は、62.5KHzになる。つまり、現状のチューナでは、比較周波数が選局STEP幅の1/(固定分周)となり、数KHz小さくなるとともに、PLLの揺らぎがLO用固定分周気のために固定分周倍されるため、キャリアにFMのかかったような状態となってしまい、このため、1KHz程度の低域オフセットでの低位相雜音は、実現が困難で固定劣化増加要因の1つになっている。

[0028]

【発明が解決しようとする課題】上記の如く、従来のCATV受信装置では、ダブルコンバージontypeのチューナーのものを用いたとすると、シングルコンバージontypeのチューナーよりも高価となり、局部発振周波数に起因する位相雑音も悪化してしまう。このような不都合を回避するためにシングルコンバージontypeのものを用いることが最適であるが、しかし、そのままの状態でCATVの受信信号を選局すると、アイソレーションが不十分であることからLOリークやリターンロス等に不都合が生じてしまい、その結果、伝送ケーブルに接続される他の加入者に対して、ゴーストやちらつき等が発生し、

画像の劣化に起因してしまうという問題点があった。

【0029】そこで、本発明は上記問題点に鑑みてなされたもので、低域オフセットの位相雑音及びシロリークやリターンロス等を改善して高性能化を可能にするとともに、低コスト化を実現することのできるCATV受信装置の提供を目的とする。

[0030]

【課題を解決させるための手段】請求項1記載の本発明に係るCATV受信装置は、高周波信号が入力される入

10 力端子と、前記入力端子に入力された信号を所定のレベルに制御して出力可能な利得制御手段と、前記利得制御手段に接続され、利得の制御された信号を増幅する増幅手段と、電圧制御型局部発振器及び混合手段を含み、前記増幅手段からの出力信号と前記局部発振器からの局部発振信号とを混合して中間周波信号を生成する周波数変換手段と、前記増幅手段と前記周波数変換手段の間に配置され、前記局部発振器を制御する制御電圧によって通過帯域が制限される可変フィルタ手段と、を具備したものである。

20 【0031】請求項1記載の本発明においては、入力端子には高周波信号が入力される。利得制御手段は、前記入力端子に入力された信号を所定のレベルに制御して出力可能なものである。増幅手段は、前記利得制御手段に接続され、利得の制御された信号を増幅する。周波数変換手段は、電圧制御型局部発振器及び混合手段を含み、前記増幅手段からの出力信号と前記局部発振器からの局部発振信号とを混合して中間周波信号を生成する。可変フィルタ手段は、前記増幅手段と前記周波数変換手段の間に配置され、前記局部発振器を制御する制御電圧によって通過帯域が制限される。これにより、可変フィルタ手段の入力のアイソレーションを改善することが可能となるため、ローリークやリターンロス等を抑制して高性能化を図ることができるとともに、低コスト化を可能にする。よって、接続された他の加入者の画像劣化を防止することができる。

【0032】請求項2に記載の本発明に係るCATV受信装置は、請求項1に記載のCATV受信装置において、前記局部発振器の局部発振周波数を制御可能なPLL回路部を備えて構成されたもので、前記PLL回路部は、PLLの比較周波数と前記局部発振器の選局ステップ幅に基づく局部発振周波数との値を一致させるように位相比較を行うことを特徴とするものである。

【0033】請求項2記載の本発明においては、請求項1に記載のCATV受信装置において、前記局部発振器の局部発振周波数を制御可能なPLL回路部を備えて構成されたもので、前記PLL回路は、PLLの比較周波数と前記局部発振器の選局ステップ幅に基づく局部発振周波数との値を一致させるように位相比較を行う。これにより、従来のTV用チューナよりも局部発振周波数の低域オフセットでの位相雜音を抑制することが可能とな

り、固定劣化の改善を図ることができる。

【0034】

【発明の実施の形態】実施形態例について図面を参照して説明する。

【0035】図1は本発明に係るCATV受信装置の一実施形態例を示すブロック図である。

【0036】図1に示すように、本発明に係るCATV受信装置(CATV用チューナとして説明する場合もある)101は、位相雑音を改善するために、従来技術で説明した如く局部発振器を1つしか持たないことで位相雑音の改善が可能なシングルバージョンタイプのものを採用して構成されている。つまり、TV用チューナに近似する回路構成となる。しかし、TV用チューナをそのままの状態でCATV用チューナとして用いると、LOリークやリターンロス等に起因する問題や低域オフセットでの位相雑音等の問題も発生する場合がある。そこで、本発明に係るCATV受信装置では、上記問題を解決するための手段が設けられている。これらの手段を採用した具体的な回路構成を次に示す。

【0037】図中に示すように、CATVチューナ101には、入力信号を取り込むための入力端子41aが設けられ、該入力端子41aには、図示しないヘッドエンドと呼ばれるセンター設備により受信されるとともにケーブル等の伝送媒体を介して伝送された受信信号(RF信号)が供給されるようになっている。入力端子41aを介して入力されたRF信号は、HPF、LPF41に供給される。

【0038】HPF、LPF41は、入力RF信号に広帯域のフィルタ処理を施して出力する。このHPF、LPF41の出力は、その後、本実施形態例で新たに設けられた付加回路としてのAGC回路70に供給される。

【0039】付加回路は、例えば前記入力端子41aと後述するチューナ主要部との間に配置され、その構成はAGC回路70、アンプ80、LPF90が順に前記入力端子41aに接続された構成となっている。

【0040】AGC回路70は、図示しないAGC回路制御部からのRFAGC信号に基づいて、入力されたRF信号の利得を最適なレベルに制限して出力する。つまり、入力電波が強い場合には、図示しない映像中間増幅回路の利得を一定の小利得にしながら、この高周波増幅回路の利得制御を行い、混変調妨害等の発生を抑制する。

【0041】AGC回路70の出力信号は、アンプ80によって増幅された後、LPF90に与える。LPF90は入力信号の低域の周波数成分を通過させて、従来同様に動作するスイッチ42の入力端に供給する。即ち、スイッチ42以降のチューナ主要部に与える入力信号を付加回路の出力RF信号とすることにより、後段の混合器(図中にはMIXと記載)47、53、59における入力のアイソレーションを改善させることができると

る。

【0042】スイッチ42は、入力されたRF信号を夫々の周波数に合わせて3つに切り替えてそれぞれ対応する可変トラッキングフィルタ(43、49、55)に出力する。例えばスイッチ42によって入力端bに基づくバンドに切り替えたものとすると、入力されたRF信号は、局部発振器54を制御する制御電圧(同調電圧Vt)によって周波数通過帯域が調整される可変トラッキングフィルタ49に供給され、該トラッキングフィルタ49によって所定の帯域が制限されてアンプ(FETAMP)50に与える。

【0043】アンプ50は、入力信号を図示しないAGC回路からの利得制御信号に基づくレベルで増幅するようレバーレベル調整して、後段の可変トラッキングフィルタ51に与える。トラッキングフィルタ51は、上記トラッキングフィルタ49と同様に局部発振器54を制御する制御電圧(同調電圧Vt)によって周波数通過帯域が調整されるようになっており、入力信号の帯域をさらに制限して出力する。この出力信号は、その後アンプ52

によって増幅された後、混合器(周波数変換部)53に与える。

【0044】混合器53は、局部発振器54からの発振周波数を用いて、アンプ52からの入力信号をIF信号(中間周波数信号)に変換して出力する。このIF信号は、その後、BPF(単同調フィルタ)61に与えることにより所定の帯域が制限され、さらにアンプ62によって増幅された後に、出力端子62aを介して図示しない信号処理部へと出力される。

【0045】また、他のバンド、即ちスイッチ42により入力端a、入力端cに基づくバンドに切り替えた場合にも、上述したバンドのときとほぼ同様に動作して、混合器47または混合器59の出力IF信号がBPF61、アンプ62を介して出力端子62aから出力されるようになっている。

【0046】このような構成によれば、ダブルコンバージョンタイプよりも広域オフセットでの位相雑音を効果的に軽減させることができとなり、デジタル伝送、特に256QAMのような多値QAMにおいて、固定劣化の増加を抑制させることができとなる。

【0047】また、上記の如く、AGC回路70、アンプ80及びLPF90の付加回路ブロックを可変トラッキングフィルタ43、49、55の前段に設けることにより、各混合器における入力アイソレーションを改善することができるため、結果としてLOリークの発生を抑制することができる。また、リターンロスについても、従来のTV用チューナのように受信チャンネルのみが良好でその他は全反射に近い状態でなく、付加回路ブロックを設けることにより、入力端子における可変トラッキングフィルタの影響を軽減させることができることから、全帯域において良好なリターンロス性能を得ること

とが可能となる。

【0048】一方、図中に示すPLL回路64は、局部発振器48、54及び60の発振周波数に基づいて制御信号を生成し、該制御信号を上記局部発振器48、54及び60に与えることにより、各発振器の発振周波数を制御する。

【0049】また、本実施形態例における上記PLL回路64は、局部発振周波数の低域オフセットの位相雑音を低減するために工夫が為されている。

【0050】例えば、PLL回路64は、図2に示すように、従来用いられていた固定分周ブリスケーラ38(図5(b)参照)を削除して構成されている。つまり、該固定分周ブリスケーラを削除することにより、PLLの比較周波数とLO(局部発振器)のステップ周波数を同一の値に設定するためである。

【0051】したがって、本実施形態例におけるPLL回路64では、図2に示すように局部発振器48、54及び60の何れかの発振器からの発振周波数を検出し可変分周器67により $(n/1)/(1/n+1)$ で分周し、この分周した信号と高精度な固定発振器(図示せず)からの信号を分周した固定分周器65からの信号とを位相比較器66によって位相比較を行い、該位相比較結果を制御電圧として前記何れかの局部発振器の発振周波数を可変させる。このように、PLL回路64は、局部発振器48、54及び60の発振周波数を制御するようになっている。

【0052】これにより、デジタル伝送でのシングルバージョンタイプのチューナにおいて、低域オフセットでの位相雑音の発生に起因したPLL回路の固定分周ブリスケーラを削除する代わりに可変分周器67を用いて分周することで、PLLの比較周波数と局部発振の選局ステップ幅とを合わせることが可能となり、結果として上記低域オフセットでの位相雑音を低減させることも可能となる。

【0053】尚、上記PLL回路64は、従来技術(図5)に示す固定分周ブリスケーラを含む通常のPLL回路構成を採用して図1に示すCATV受信装置を構成しても良いが、図2に示すPLL回路64を採用して構成した方がさらに効果的に固定劣化の改善を図ることができる。

【0054】図3は本発明に係るCATV受信装置の他の実施形態例を示し、該受信装置の応用例を示すブロック図で、図3(a)はIF信号復調タイプのものであり、図3(b)はI, Q信号復調タイプのものが示されている。尚、図3に示すチューナ101は、図1に示すチューナと同様構成要件で構成されたものが用いられているものとする。

【0055】本実施形態例では、図1に示すCATV受信装置の後段に、さらに付加回路群を付加することにより、2種類の異なる復調処理の可能なCATVチュ

ナ、即ち、IF出力タイプのものと、I, Q出力タイプのものをそれぞれ構成することが可能となる。

【0056】具体的には、図3(a)に示すように、IFタイプのチューナは、図1に示すCATV用チューナ101の出力端子62aからの出力IF信号を入力するBPF102を備える。BPF102は、入力IF信号の所定帯域を制限して、アンプ103に供給する。アンプ103は、BPF102の出力信号を増幅して、さらに設けられた混合器(図中にはMIXと記載)104に供給する。

【0057】混合器104は、局部発振器107の局部発振周波数とアンプ103からの出力信号とを混合することで、入力IF信号をさらにダウンコンバートして出力する。このとき、図示しないA/Dコンバータ(該チューナと接続されるA/D変換器)が直接動作するIF信号の周波数までダウンコンバートする。

【0058】混合器104によってさらに周波数変換されたIF信号は、LPF105によって信号の低域成分のみが通過され、その後、アンプ106によって増幅された後、図示しない信号処理部へと出力される。このように、さらにダウンコンバートして復調することにより、図示しない信号処理部に与えるIF信号を得ることが可能となる。

【0059】一方、もう一つのI, Q出力タイプのチューナは、図3(b)に示すように、上記同様図1に示すCATV用チューナ101の出力端子62aからの出力IF信号を入力するBPF102を備える。BPF102は、入力IF信号の所定帯域を制限して、アンプ103に供給する。アンプ103は、BPF102の出力信号を増幅して、それぞれ周波数に応じて入力IF信号を分配する分配器108に供給する。

【0060】分配器108は、入力IF信号を周波数に応じて分配し、一方を混合器109に、もう一方は他の混合器112に出力する。これらの混合器109、112には、局部発振器117からの局部発振周波数の位相がそれぞれ設けられた移相器115によって90度位相がずらされた局部発振周波数信号がそれぞれ供給されるようになっている。

【0061】これらの混合器109、112は、それぞれ入力されたIF信号と、それぞれ位相が異なる局部発振周波数信号とを混合して周波数変換し、得られたIF信号を、接続されるLPF110、113にそれぞれ供給する。その後、各LPF110、113によってそれぞれ入力信号の低域成分が通過された後、アンプ111、114によってそれぞれ増幅されて各出力端子111a、114aより、図示しない信号処理回路へと供給される。このように復調処理を行うことにより、90度位相が異なるI信号及びQ信号を得ることが可能となる。

【0062】したがって、本実施形態例によれば、図1

に示す前記実施形態例と同様の効果を得ることができる他、異なる復調処理を行う2種類のタイプ別チューナーを構成することが可能となり、簡単な回路構成で高性能なCATV用チューナーの実現を図ることができる。

【0063】尚、本発明に係る実施形態例においては、図1に示すチューナ構成において、3バンドに切換可能な3バンド方式のものについて説明したが、これに限定されることはなく、例えば最近実用化されている2画面表示可能なTV用チューナのように2バンド方式として構成するようにしても良い。このような場合でも、本実施形態例と同様の効果を得ることが可能となる。

【0064】

【発明の効果】以上、述べたように本発明によれば、AGC回路70とアンプ80とLPF90とで構成される付加回路ブロックを可変トラッキングフィルタの前段に設けることにより、混合器の入力のアイソレーションを改善することができるため、LOリークやリターンロス等の起因する影響を低減することができるとともに、位相雑音を抑制することができるようともに、高性能化及びコスト化に寄与する。これにより、伝送ケーブルを介して接続された他の加入者に対する画像劣化を防止すること

ができる。また、PLL回路にて、PLL比較周波数と局部発振周波数の選局ステップ幅との値を一致させるように位相比較を行わせることにより、局部発振周波数の低域オフセットでの位相雑音を低減して、固定劣化の改善を図ることも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るCATV受信装置の一実施形態例を示すブロック構成図。

【図2】図1のPLL回路の構成を示すブロック図。

【図3】他の実施形態例を示すブロック図。

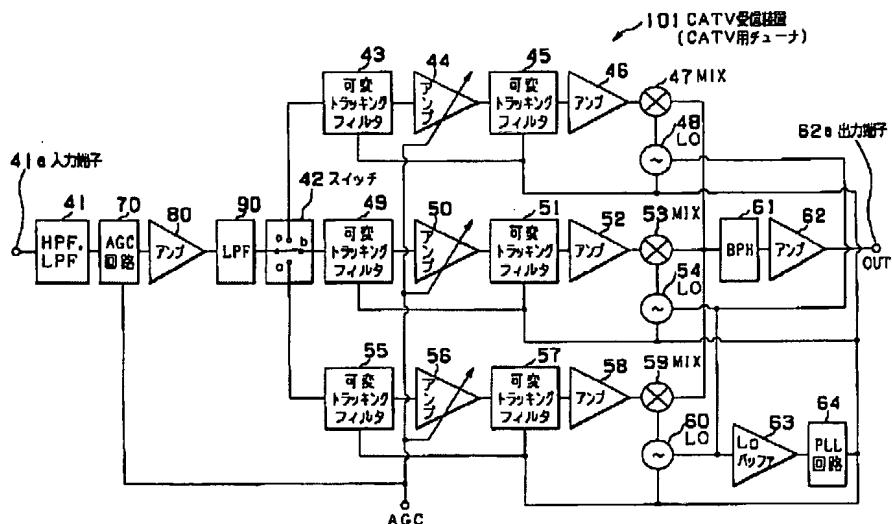
【図4】従来のタブルコンバージョンタイプのチューナーの一例を示すブロック図。

【図5】従来のシングルコンバージョンタイプのチューナーの一例を示すブロック図。

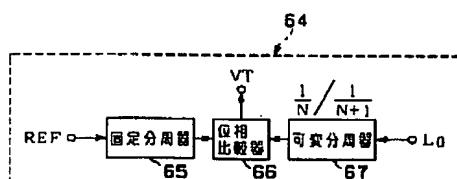
【符号の説明】

41 a…入力端子、42…スイッチ、43、45、49、51、55、57…可変トラッキングフィルタ、44、50…アンプ(FET AMP)、47、53…混合器(MIX)、48、54…局部発振器(LO)、61…BPF、62…BPHアンプ、64…PLL回路、62a…出力端子。

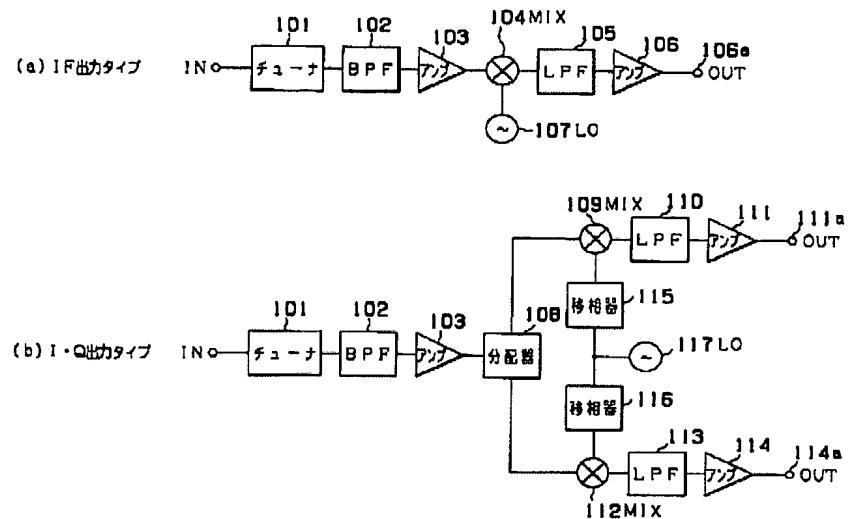
【図1】



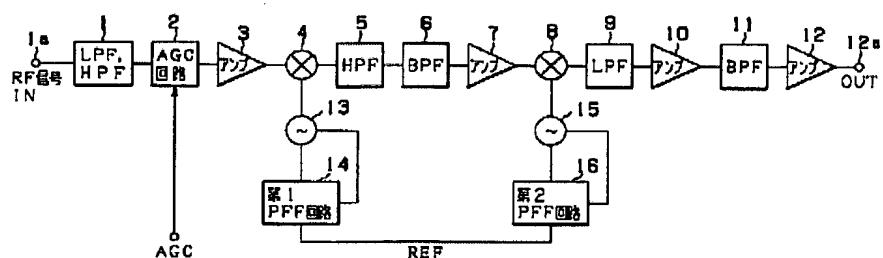
【図2】



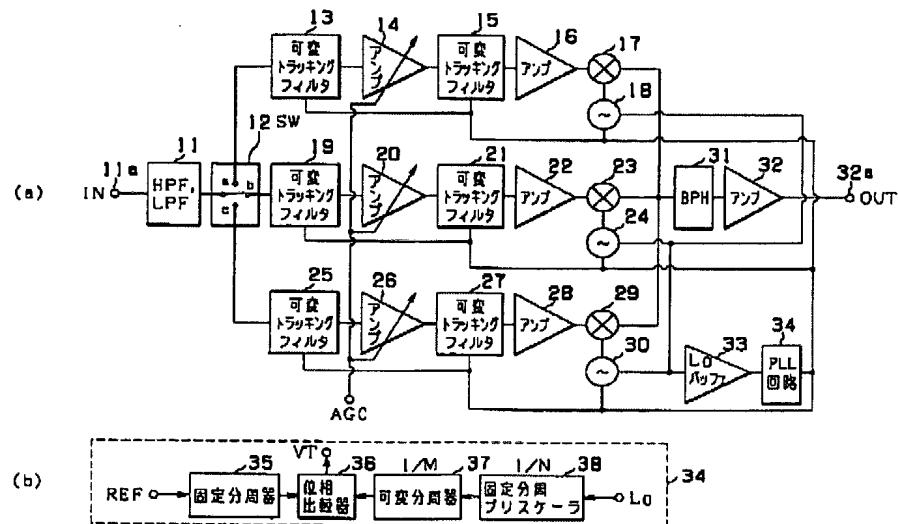
【図3】



【図4】



【図5】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.